

広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（1）

都道府県名： 長崎県

計画の名称： 島原半島地域広域活性化計画

1) 事業の実施状況

計画の整備方針	事業区分	事業名	事業実施状況	事業未実施の理由
①広域交通網の充実と、観光地と主要幹線道路をつなぐアクセス道路等の整備	基幹事業	一般県道雲仙千々石線改良（雲仙工区）	○	
		一般国道251号・389号道路修繕	○	
		島原港	○	
		多比良港	○	
	関連事業	本明川河川環境整備事業	○	
		一般国道251号（愛野森山バイパス）	△	計画期間終了後に完成見込み（H25.12.21完成）
		一般国道251号（島原中央道路）	△	計画期間終了後に完成見込み（H24.10.8完成）
		一般国道389号（矢筈拡幅）	○	
②地元水産物の地産地消と安定供給を推進する基盤の整備	基幹事業	一般県道雲仙千々石線改良（木場工区）	△	
		島原港	○	
		多比良港	○	
		西郷港	○	
		口ノ津港	○	
	小浜港	○		
関連事業	市道広馬場湊新地線・湊新地2号線	-		
提案事業	小浜港湯の街散策事業	○		
③歴史的資産を活かした公共施設の整備	基幹事業	みのつる川河川環境整備事業	○	

○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込み -：事業を中止

2) 目標の達成状況

計画目標	事業効果の確認方法	指標名	従前値	目標値	評価値
温泉・自然・歴史・食などの地域資源を活かした魅力ある観光地の再生を図り、さらなる観光拠点とし、県内外から観光客を呼び込む。	計画で定めた目標指標	①観光客数	567万人（H18年）	620万人（H23年）	626万人（H23年）
		②所要時間短縮率	0%（H18年）	13%（H23年）	13%（H23年）
		③フェリー乗客数	2,272千人（H18年）	2,279千人（H23年）	1,632千人（H23年）
	目標指標以外の成果指標				
	その他の定性的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の魅力を向上させるとともに、広域観光ルートの形成を促進する。 ・島原半島内の主要観光地や他の地域との間の快適な移動環境を整備し、観光客の利便性向上を図る。 			

広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（２）

3) 目標達成・未達成への事業の効果の影響分析

事業効果の確認方法	計画で定めた目標指標			目標指標以外の成果指標	その他定性的な成果
	①観光客数	②所要時間短縮率	③フェリー乗客数		
事業効果の発現状況	・一般県道雲仙千々石線道路改良工事（雲仙工区）等により、観光入込客数が、567万人（H18年）から626万人（H23年）へと、59万人増加（10%増）となった。	・一般県道雲仙千々石線道路改良工事（雲仙工区）等により、所要時間短縮率が、0%（H18年）から13%（H23年）へと、13%増加した。	・フェリー乗客数は、2,272千人（H18年）から1,632千人（H23年）へと、3割程度減少した。		・島原地域においては、半島という地理的ハンディキャップを解消し、地域経済の活性化を促進するため、規格の高い地域高規格道路の整備が重点的に進められ、アクセスの大幅な向上が見込まれる。
外部要因の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光客数」は、目標は達成できたものの、H23年は、東日本大震災の影響による減少に加え、主要宿泊施設の閉館に伴う宿泊客数の減少により、前年度と比較すると減少している。 ・「フェリー乗客数」は、成果目標を設定したH18年時点で、「高速料金の休日の上限1000円」や「一部区間の無料化実験」の政策を想定していなかったが、平成21年3月28日～平成23年6月19日まで実施されたこの政策の影響を受け、フェリーの乗客者が減少したと考えられる。 				・特に無し
目標達成・未達成の要因 (問題点の把握)	・特に無し	・特に無し	・外部要因の影響が大きいので、それに影響されても、目標が達成できるような整備や制度が必要。		・複数事業を実施し、交流人口のさらなる拡大が必要。
目標の達成・未達成区分	S	S	A		
全体計画の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「フェリー乗客数」は目標達成とはならなかったが、本計画に基づき、海路・陸路連動した事業を実施することができたことにより、今後の地域構造を強化する役割を担う「島原道路」の整備と連携するなど、島原半島全体の活力向上に貢献できた。 				

S：計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った
A：計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値には達していない
B：計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った
C：計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

4) 事後評価の手続き

実施体制・実施時期	・計画全体についての評価を実施主体でまとめる。
結果の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県ホームページにて公表を行っている。 http://www.pref.nagasaki.jp/zaisei/situation/jishusenryaku/h23_tasseijoukyou.pdf

広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（3）

5) 今後の活性化方策の検討

①未達成目標の改善方策

計画で定めた目標指標	目標の達成状況	改善方策
観光客数	S	【達成】
所要時間短縮率	S	【達成】
フェリー乗客数	A	【未達成】 ・九州新幹線鹿児島ルート開業による九州中南部の観光客が、近年増加していることから、島原半島を長崎県へのゲートウェイとした観光活性化を目指し、フェリー乗客数の増加を目指す。

②今後の広域的地域活性化方策

九州各県と広域に連携したプロジェクトを作成し、継続的な発展を目指す。
また、成長著しいアジア地域と地理的優位性がある本県の特徴を活かし、周遊性・回遊性を高めるため、海路整備（港湾）と陸路整備（道路）の相互アクセス向上に努めとともに、島原道路など県内外の地域間連携や交流促進を図る事業を推進していく。
観光部局等と連携したソフト事業を活用して、人流・物流の活性化を図っていく。

6) フォローアップ

計画目標	フォローアップが必要な目標指標	フォローアップ時期	フォローアップの公表方法

参考資料：事後評価におけるチェック項目

I. 事後評価の内容

①事業の実施状況	チェック欄
事業（基幹、提案、関連）の実施状況が明らかにされている。	■
拠点施設及び重点地区における拠点施設整備事業については、基幹事業の一体性が確認されている。	■
当初見込んだ事業効果の発現状況が明らかにされている。	■
拠点施設の整備を伴う計画の場合（法第2条第3項第1号）、当該事業が実施された。	<input type="checkbox"/> 該当しない
他の事業との連携等による、相乗効果・波及効果について記載されている。	■
②目標の達成状況の整理	
広域的特定活動の状況を踏まえた目標の達成状況が記載されている。	■
指標・数値目標により、目標の達成状況が表現されている。	■
計画で定めた目標指標以外の成果指標について、指標・数値目標がわかりやすいものとなっている。	■
評価のわかりやすさや中立性を損なわない範囲で、指標・数値目標以外の方法によっても、目標の達成状況に関する評価がなされている。	■
事後評価の時点で目標指標の計測が困難な場合、フォローアップの実施時期が明確にされている。	<input type="checkbox"/> 該当しない
目標の達成状況に影響を与える主な外的要因が把握・整理されている。	■
③目標の達成・未達成要因の分析、評価	
拠点施設が広域的特定活動の拠点としての機能を果たしている。	■
事業内容と指標・数値目標との整合性が確保されている。	■
地域資源の活用やハード・ソフトの連携等が図られている。	■
拠点施設での広域的特定活動が計画どおり実施されている。	■
民間事業者等の多様な主体との連携が図られた。	■
外的要因の影響を踏まえた評価となっている。	■
④今後の広域活性化方策の検討	
評価内容を踏まえた今後の改善策や更なる取り組みの方針が明確となっている。	■
今後の改善策や更なる取り組みの状況を明らかにするフォローアップの計画が示されている。	■

II. 事後評価の手続き

第三者（学識者等）による評価委員会で検討されるなど、適切な体制で評価が実施されている。	■
交付金等の制度の効果的・効率的な活用を広く国民に明らかにし、また、分かりやすい方法で確認することができるよう、適切に公表がされている。	■

III. その他

事後評価の内容と整合の図られた広域的広域活性化基盤整備計画が添付されているか。	■
---	---